

奈良国立文化財研究所要項

I 事業概要

1 研究普及事業

公開講演会

- (1) 1974年5月25日 第35回公開講演会
 「掘立柱建物の推移」 宮本長二郎
 「古代の土馬」 小笠原好彦
- (2) 1974年11月16日 第36回公開講演会
 「古代炊飯具の系譜」 木下正史
 「奈良時代の大嘗祭」 加藤 優

現地説明会

- (1) 1974年8月31日 平城宮跡内裏東北隅及び西南隅発掘調査現地説明会 吉田恵二
- (2) 1974年10月12日 大宮大寺講堂跡発掘調査現地説明会 山中敏史
- (3) 1974年12月7日 薬師寺西僧房跡発掘調査現地説明会 岡田英男, 黒崎直, 千田剛道
- (4) 1975年3月29日 平城京左京八条三坊発掘調査現地説明会 佐藤興治

平城宮跡資料館・覆屋公開

- (1) 春季特別公開
 1974年4月28日～5月6日 見学者 7,615名
 秋季特別公開
 1974年10月26日～11月10日 見学者16,645名
- (2) 見学者数

区 分	資料館	覆 屋	計
1974	38,636	63,155	101,791
累 計*	140,137	332,914	473,051

*資料館は1970年度・覆屋は1968年度以降

2 1974年度文部省科学研究費補助金による研究

研究課題（種類 担当者 交付金額）

南都諸寺寺誌資料の収集ならびに研究

総合研究A 長谷川 誠 2,200千円

古代手工業製品の材質分析による生産地の決定

一般研究A 佐原 真 1,500千円

大和における条里条坊の復原的研究

一般研究A 狩野 久 18,000千円

屋瓦生産からみた8世紀における地方寺院造営

事情の研究

一般研究C 森 郁夫 1,000千円

平安時代官窯瓦当文の系譜的研究

一般研究D 佐藤興治 250千円

ササン朝文化の東漸

奨励研究A 山本忠尚 220千円

弥生時代住居構造の基礎的研究

奨励研究A 大脇 潔 220千円

3 飛鳥資料館の開館及び運営

(1) 開 館

飛鳥資料館の開館式は3月15日午後2時から同館前庭で文化庁長官, 次長, 奈良県, 明日香村等の関係者のほか各界の代表, 歴史・考古・美術関係者など約500人の出席の下に行われた。

式は, 小川所長の式辞(後掲), 安達文化庁長官あいさつ, 渡辺近畿地方建設局長竣工あいさつの後, 飛鳥古京を守る議員連盟会長(山岡事務局長代読), 奥田奈良県知事(池田教育長代読), 岸下明日香村長の祝辞があり, 設計者, 施工業者, 展示関係協力者, 地元協力者等への感謝状の贈呈が行なわれ終了した。式後, 安達文化庁長官, 岸下明日香村長の手によるテープカットの後, 開館展示の披露が行なわれた。

翌16日からは, 一般に公開され, 一般公開初日には, 1600人余の観覧者を数えるほどの盛況で, 展示も好評で, きわめて良好なスタートをきった。

(2) 展 示

第一展示室 常設展示

第二展示室 開館記念特別展示「仏教伝来—飛鳥への道」(50.3.16～50.6.8)

(3) 普 及

普及事業としては, 玄関正面のインフォメーションルームに, 飛鳥関係図書約50冊を開架図書として書棚に並べ一般観覧者の参考に供するとともに, 学芸室職員が, 入館者の質問に応ずるインフォメーションサービスを行なった。

この他に展示関係のカタログとして次の二冊を刊行した。

飛鳥資料館案内(常設展示カタログ)

仏教伝来—飛鳥への道(特別展示カタログ)

奈良国立文化財研究所要項

(4) 入館者数

(1975.3.16~3.30 開館日数13日)

	普通観覧	団体観覧	有料計	無料	合計
一般	5,807	1,417	8,927	728	9,655
小・中学生	1,447	256			
計	7,254	1,673			

(5) 資料の購入等

購入 四天王寺軒丸瓦, 石川精舎軒丸瓦,

扶余天王寺軒丸瓦, 百済蓮華文甁, 各1個
模造製作 銅造阿彌陀三尊(重文・「山田殿」銘)

銅板小野毛人墓誌(国宝), 水坩古墳 石棺一部, 鳳凰文甁(重文), 豊浦寺出土軒丸瓦, 山田寺出土軒丸瓦, 岡寺出土軒丸瓦, 飛鳥寺出土軒丸瓦, 百濟軒丸瓦

4 埋蔵文化財センターの研修・指導

研 修

地方公共団体において埋蔵文化財保護行政を担当する者に対して、埋蔵文化財の発掘調査及び保存についての専門的知識と技術について研修を行ない、埋蔵文化財の保護に資することを目的として、次の研修を実施した。

(1) 昭和49年度第1期埋蔵文化財発掘技術者研修(一般課程)

1974年7月29日~8月30日(参加者15名)

(2) 昭和49年度第2期埋蔵文化財発掘技術者研修(一般課程)

1975年1月20日~2月28日(参加者15名)

(3) 研修員受入

船木義勝(秋田県教委文化課)

1974年5月12日~6月13日

内山誠一郎(千葉県東金市教委)

1975年3月3日~3月20日

調査指導

(北海道) 遠矢第Ⅱチャシコツ(岩手) 毛越寺(宮城) 木戸窯跡, 日の出窯跡, 大吉山窯跡, 多賀城跡(秋田) 払田柵跡(富山) じょうべのま遺跡(石川) 御経塚遺跡(福井) 一乗谷朝倉氏遺跡(山梨) 勝沼氏館跡(長野) 奈良井宿, 糸里遺跡(岐阜) 不破岡, 美濃国分寺跡(愛知) 大山庵寺(三重) 多気町窯跡, 御墓山古窯跡, 斎王宮跡(京都) 恭仁宮跡(大阪) 池上

・四ツ池遺跡(兵庫) 五色塚古墳, 但馬国分僧寺跡(和歌山) 紀伊風土記の丘(鳥取) 伯耆国分尼寺跡(鳥根) 出雲国庁跡, 富田河床遺跡, 出雲国分尼寺(岡山) 熊山遺跡, 備前国分寺跡(広島) 草戸千軒町遺跡, 宮の前庵寺跡(福岡) 井原・三雲遺跡(沖縄) 座喜味城跡(海外) インドネシア・ボロブドール仏跡

その他発掘技術者講習会(岐阜), 都市開発計画に伴う埋蔵文化財の調査(三重)等の指導。

5 その他

委員会等

平城・飛鳥藤原宮跡調査整備指導委員会

(1) 整備部会 1974年5月16日於平城宮跡資料館

(2) 平城宮跡整備基本計画策定に関する小委員会

1974年9月9日 於平城宮跡資料館

飛鳥資料館運営協議会

1974年11月29日 於飛鳥資料館

外国出張

川越俊一 広島大学イラン学術調査隊員としてイランに派遣された。:考古学的発掘調査及び遺跡・遺物の分布調査。

1974年10月1日~同年11月9日

牛川喜幸 文部省在外研究員としてデンマーク・スウェーデン・オーストリア・オランダ・西ドイツ・フランス・イタリアに派遣された。

:写真測量の文化財調査への応用及び遺跡保存修景方法の研究。併せてボロブドール仏跡修復のための写真計測技術協力としてインドネシアに派遣された。:同仏跡修復のため写真計測に関する講義等。

1974年10月1日~同年12月8日

伊東太作 ボロブドール仏跡修復のための写真計測技術協力としてインドネシアに派遣された。

1974年11月30日~1975年1月31日

森 郁夫 アスバック交換研究員として韓国に派遣された。:韓国における古代仏教遺跡及び出土遺物の調査研究。

1974年12月12日~1975年1月22日

海外学者・研究者受入

ユネスコフェローとして、日本の文化財及びその保護の現状を視察及び研修する目的をもって来日した、米国内務省国立公園局公園史跡保護部次長

Robert M. Utley 並びにポーランド国立民族学博物館首席文化財保護官 Daniel Tworek 両氏をそれぞれ1974年5月29日～6月8日、5月31日～6月14日の間当研究所に受入れ、便宜供与を計った。

モンゴル政府の寺院修復専門家 Myatavyn Tsembeldorj(文化省文化財修復局壁画師), Maidaryn Orgil(ウランパートル絵画研究建設委員会建築士), Ravdangiyn Damdinjamts(中央博物館研究員)3氏を1974年8月26日～同月31日まで受入れ、測量技術及び写真測量の研修を行なった。

協力事業等

- (1) 特別史跡高松塚古墳の保存施設設置に伴う事前調査並びに工事施工等に、1974年7月上旬より年度末まで、随時文化庁に協力した。また壁画修復に関する応急措置並びに調査が11月22日並びに1975年3月27・28日に行われたが、これにも協力した。
- (2) 第2回平城宮跡保存整備委員会を平城宮跡資料館で開催(文化庁主催)1974年5月28日。

第3回平城宮跡保存整備委員会を平城宮跡資料館で開催(文化庁主催)。1974年10月14日
 (3) 文化庁では1971年度から特別史跡藤原宮跡の国有化を進めており、1972年度からは当研究所が文化庁から支出委任を受けて買取事務を担当しているが、1974年度の状況は下記の通りである。

区 分	面 積	購 入 額
1974	19,344.33m ²	311,659,433 ^円
国有地合計	52,141.99	740,336,358

Ⅱ 図書及び資料 (1974年度末現在)

図書 30,704冊

区分	種 別	購 入	寄 贈	計
1974	和漢書	1,352	859	2,211
	洋 書	251	105	356
累計	和漢書	20,756	7,920	28,676
	洋 書	1,741	287	2,028

写真 123,311点

Ⅲ 研究成果刊行物

奈良国立文化財研究所学報

年度	名 称	担 当 者
昭29	第1冊 仏師運慶の研究	小林 剛
昭30	第2冊 修学院離宮の復元的研究	森 蘊
昭30	第3冊 文化史論叢	小林 剛・森 蘊・杉山信三・田中一郎・田中 稔
昭31	第4冊 奈良時代僧房の研究	浅野 清・鈴木嘉吉
昭32	第5冊 飛鳥寺発掘調査報告	浅野 清・杉山信三・坪井清足・鈴木嘉吉
昭33	第6冊 中世庭園文化史	森 蘊
昭33	第7冊 興福寺食堂発掘調査報告	坪井清足・鈴木嘉吉
昭34	第8冊 文化史論叢Ⅱ	小林 剛・守田公夫・浜田 隆・杉山二郎
昭34	第9冊 川原寺発掘調査報告	杉山信三・坪井清足・鈴木嘉吉・田中 稔・工藤圭章・田中 琢
昭35	第10冊 平城宮跡・伝飛鳥板蓋宮跡発掘調査報告	杉山信三・坪井清足・鈴木嘉吉・工藤圭章・田中琢・岡田茂弘・岩本次郎
昭36	第11冊 院家建築の研究	杉山信三
昭37	第12冊 巧匠安阿弥陀仏快慶	小林 剛
昭37	第13冊 寝殿造系庭園の立地的考察	森 蘊
昭37	第14冊 レースと金亀舍利塔に関する研究	守田公夫
昭38	第15冊 平城宮発掘調査報告Ⅱ 官衙地域の調査	坪井・鈴木・田中稔・工藤・田中琢・岡田・狩野久・河原純之
昭38	第16冊 平城宮発掘調査報告Ⅲ 内裏地域の調査	榎本亀治郎・坪井・田中稔・工藤・沢村仁・田中琢・岡田・狩野
昭40	第17冊 平城宮発掘調査報告Ⅳ 官衙地域の調査	岩本・榎本・坪井・田中稔・工藤・沢村・田中琢・岡田・狩野・河原
昭42	第18冊 小堀遠州の作事	森 蘊
昭42	第19冊 藤原氏の氏寺とその院家	杉山信三
昭44	第20冊 名物裂の成立	守田公夫
昭46	第21冊 研究論集Ⅰ	伊藤延男・田中 稔・長谷川 誠・沢田正昭
昭48	第22冊 研究論集Ⅱ	鬼頭清明・東野治之・阿部義平・田中 稔
昭49	第23冊 平城宮発掘調査報告Ⅵ 平城京左京一	坪井・町田・横田・宮本・藤原・佐藤・小笠原・吉田・沢田・田辺・小野・黒崎・西口
昭49	第24冊 高山一町並調査報告一	建造物研究室

奈良国立文化財研究所要項

奈良国立文化財研究所史料

年度	名 称	担 当 者
昭29	第1冊 南無阿彌陀仏作善集(複製)	田沢 坦
昭30	第2冊 西大寺叡尊伝記集成	小林 剛
昭38	第3冊 仁和寺史料 寺誌編1	田中 稔
昭39	第4冊 俊東坊重源史料集成	小林 剛
昭41	第5冊 平城宮木簡 1 図版	田中稔・田中琢・狩野・原秀三郎・横田拓実・鬼頭・加藤優
昭42	第6冊 仁和寺史料 寺誌編2	田中稔・狩野・加藤優
昭44	第5冊 平城宮木簡 1 解説(別冊)	坪井・守田・田中稔・田中琢・狩野・原・横田拓実・工業善通・鬼頭・加藤優・岩本次郎
昭45	第7冊 唐招提寺史料 1	田中稔・加藤優・永野温子
昭49	第8冊 平城宮木簡 2 図版・解説	坪井・田中稔・狩野・佐原・工業・横田・鬼頭・加藤・黒崎・東野・今泉・綾村・山本
	第9冊 日本美術院仏像等修理記録 1	長谷川 誠・星山晋也

奈良国立文化財研究所基準資料

年度	名 称	担 当 者
昭48	第1冊 瓦編1 解説	平城宮跡発掘調査部考古第三調査室
昭49	第2冊 瓦編2 解説	平城宮跡発掘調査部考古第三調査室

Ⅳ 機構・定員

機構の改正

1974年4月12日省令改正に伴い庶務部が設けられ従来の庶務課と会計課を統轄することとなった。又新たに埋蔵文化財センター(教室・考古計画研究室・測量研究室)が設けられた。

定 員

	指定職	行政一	行政二	研究職	計
1973年度	1	19	8	56	84
1974年度	1	22	7	62	92

(増員内訳) 庶務部1 埋蔵文化財センター8
(減員内訳) 庶務課1

Ⅴ 予算(1974年度)

歳 出	803,105,234円
人件費	225,275,836 ^円
運営費	360,191,398
事業管理	15,385,165
一般研究	25,114,000
特別研究	2,008,000
平城宮跡発掘調査	139,884,745
飛鳥藤原宮跡発掘調査	89,333,000
平城宮跡整備管理	11,591,000
藤原宮跡整備管理	5,191,000
飛鳥資料館運営	44,141,488
埋蔵文化財センター運営	27,543,000
施設費	217,638,000

Ⅵ 施設

土地 23,371㎡(当所所管)

春日野地区	5,126㎡	飛鳥資料館	16,902㎡
資料館宿舍	1,343㎡		
985,130.99㎡(文化庁所管)			
平城宮跡地区	932,989㎡		
藤原宮跡地区	52,141.99㎡		

建 物

建 物	春日野	平城	藤原	飛鳥資料館	計
事務所	797	724	—	152	1,673
倉庫・収蔵庫	191	2,781	465	391	4,032
車庫	20	128	—	—	148
会議室	40	64	—	42	146
学生会議室	109	—	—	89	198
写真真室	86	128	—	49	263
展示室	—	480	—	677	1,157
覆屋・展示棟	—	1,935	—	—	1,935
その他	200	916	624	1,040	2,776
計	1,443	7,156	1,089	2,440	12,328
重要文化財 旧米谷家住宅					217
合 計					12,545

主要工事

(1) 施設整備

埋蔵文化財センター研修宿舍新営	15,300千円
藤原宮跡遺物収蔵棟増設	4,400
同屋外消火栓設置工	1,085

奈良国立文化財研究所年報

同自動火災警報装置設置工	1,150	埋蔵文化財センター教務室長に昇任	
省庁別宿舍屋根瓦工	1,684		藤田 修
(2) 平城宮跡地整備		平城宮跡発掘調査部主任研究官に昇任	
境界土塁外2件工	28,900		細見啓三
緑陰帯造成外5件工	48,600	飛鳥藤原宮跡発掘調査部主任研究官に昇任	猪熊兼勝
築地回廊及東楼基壇復原整備工	22,500	埋蔵文化財センター主任研究官に昇任	
井戸跡復原工	8,950		松沢亜生
灌水施設工	28,800	平城宮跡発掘調査部考古第三調査室に転任	須藤 隆
Ⅶ 人事異動			
(1974年4月1日～1975年3月31日)		4月16日 文部事務官採用	上田博司
4月1日 奈良工業高等専門学校庶務課長に昇任		5月20日 埋蔵文化財センター教務室教務係長に昇任	山崎一博
寺尾敏明		庶務部庶務課庶務係長に昇任	井上政和
庶務課課長補佐に昇任	岩本次郎	庶務部会計課経理係長に昇任	加藤建夫
平城宮跡発掘調査部考古第三調査室長に昇任	森 郁夫	6月16日 辞職	上田博司
辞職	丹阪信次	6月18日 当研究所長に転任	小川修三
文化庁に outward (同庁会計課管財係長に就任)	坂口義尚	文化庁次長に転任	内山 正
文部技官採用	百橋明穂・岩本正二・川越俊一・山崎信二	7月1日 事務補佐員採用	西 一典
警務員長に昇任	木寅忠雄	9月1日 技能補佐員採用	乾 春雄
技術補佐員採用	井上直夫	10月1日 会計課に転任	冬野 徹
研究補佐員採用	山田 猛・尾上 実	10月21日 庶務部会計課専門職員に配置換	日高参夫
4月11日 庶務部長に昇任	服部栄次	庶務部会計課用度係長に昇任	西田健三
平城宮跡発掘調査部長に昇任	鈴木嘉吉	12月31日 埋蔵文化財センター考古計画研究室長に配置換	田中 琢
飛鳥藤原宮跡発掘調査部第二調査室長に昇任	宮沢智士	2月1日 事務補佐員採用	中垣睦美
埋蔵文化財センター長に配置換	坪井清足	3月4日 事務補佐員採用	福田洋子
		3月30日 辞職	吉田みちこ・稲葉久子・松石清子・毛利光用子

飛鳥資料館開館所長式辞 (要旨)

当資料館は既に皆様御承知のように、飛鳥地域の保存の施策の一環として設けられたものであります。かえりみまするに昭和45年春のころから、飛鳥地方の保存の声が俄かに高まり、国会方面においても「飛鳥古京を守る議員連盟」が設立され、政府においては文化財保護審議会並に歴史的風土審議会の答申にもとづいて、同年12月に至り「飛鳥地方における歴史的風土および文化財の保存に関する方策」の閣議決定をみたのであります。その方策の中に「歴史資料館を明日香奥山に設置

すること」があげられており、ここに当資料館の設置が決定したのであります。

これに基づき文化庁は、翌46年4月、学識経験者による資料館設置準備会議を設け基本構想を練るとともに、他方奈良県教育委員会に委嘱して建設用地の買上に着手し、奈良県教育委員会はもとより土地所有者はじめ地元の御協力のもとに、ここに16,900㎡におよぶ敷地をさだめられたのであります。建物につきましては、基本設計を斯界の権威谷口吉郎博士にお願いし、博士のお力により飛

鳥の地にふさわしい設計が完成致しました。実施設計並びに施工監理は建設省近畿地方建設局に依頼し、村本建設株式会社等が工事を担当することとなり、昭和48年2月工を起し、昨49年2月に至り御覧のような地上地下各一階、延2,440㎡の建物の竣工をみたのであります。

この間において当資料館を奈良国立文化財研究所に所属させることが決り、48年4月省令が公布され、飛鳥資料館は当研究所の一部局として発足することとなり、資料館の目的は「飛鳥地域の歴史的意義及び文化財に関し国民の理解を深める」ことと定められ、その所掌事務としては「関係資料を収集保管して観覧に供し、あわせて関連する調査研究及び事業を行なう」旨が規定されたのであります。

爾来、当研究所におきましては、さきに文化庁に設けられた、設置準備会議の基本構想にもとづいて、展示の内容方法等について鋭意検討を重ね、出品者の方々の御協力を得て展示資料の蒐集に努めるとともに、他方建物周辺の庭園工事に着手致しました。しかし時節の影響をうけ工事は当初の予定より大巾に遅れ、また未完成の部分が相当残されてはおりますが、第1期の工事を完成、本日ここに開館の運びとなったのであります。

展示につきましましては、1300年の昔、1世紀余にわたって都がおかれていたいわゆる広い意味の飛鳥時代、すなわち中国朝鮮の制度文化を取り入れ、わが国にはじめて統一国家が形成されるに至る6世紀末から8世紀初頭までに専ら主眼をおき、また地域としては広く用いられる場合の飛鳥の地、すなわち明日香村をはじめ、橿原、桜井両市および高取町の一部を含む地域を対象とし、この地域に遺されております宮跡、寺跡、古墳並びにそれらからの出土品、仏教関係美術、石造物等の文化財を中心として、展示を行なう事とし、また飛鳥の地に今なお残る万葉の風土に接する際の手がかりともなるよう考えたのであります。そしてこの資料館が当研究所に所属しているという点に坎がみ、研究所としての当所が持っております全機能を有機的に活用して、その充実を図ることに心

がけ、安易な啓蒙に墮することなく、正確な学術的な基礎に立脚した展示を行なうことを基本といたしました。他方展示の方法等については専ら平易な、また親しみ易いものにするよう心がけ、両者相まって飛鳥を訪れる年間20万に及ぶ各階層の方々に役立ち得るよう、いささか意を用いたのであります。しかしながら、言うは易く行なうは難く、果して意図したところをどの程度果し得たか内心危惧の念をおぼえております。この資料館はいわば小規模な歴史博物館の性格を持つものであり、国の設置するこの種の博物館としては初めてのものであり、またわれわれの努力にも至らぬところが極めて多かろうと存じます。是非皆様方の忌憚ない御批判を賜りたいところでございます。また開館後の来館者の意見感想なども積極的に取り入れ、絶えず改善を加えて参りたいと存じています。

この館の主要な部分は以上申し述べた常設展示であります。今回開館に際し「仏教伝来—飛鳥への道」と題して、仏教が日本に渡ってくるまでを、アジア諸地域のすぐれた仏像を中心として展示する試みを行ないましたが、この種の特別展示も随時行ないたいと考えております。また庭園の工事が未完成であります。順次屋外展示も行なうつもりであり、建設予定地の事前発掘調査の際に発見されました、本館右手にあります飛鳥時代の石組暗渠を整備して展示に加えるよう計画致しております。展示のほか各種の普及活動も計画しており、特に資料閲覧室を設け、図書資料の閲覧を行なうほか、質問にも応えるということも企図しており、開館当初はまだ十分な準備が整っておりませんが、今後の充実を期しているところであります。

以上開館にあたり当館設立の経過と、運営についての所存をいささか申し述べましたが、終りにあたり当館開館までの各方面の御指導御協力に対し心から感謝のまことをささげますとともに、御来臨の皆様方には今後とも絶えず暖い御援助を賜りますようお願い申し上げます。私の式辞といたします。

Ⅶ 組織規定

文部省設置法 抜萃

昭和24年法律第146号
昭和43年6月15日一部改正

第36条 第43条に規定するもののほか、文化庁に次の機関を置く。

国立文化財研究所（前後略）

第41条 国立文化財研究所は、文化財に関する調査研究、資料の作成及びその公表を行なう機関とする。

2 国立文化財研究所の名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
東京国立文化財研究所	東 京 都
奈良国立文化財研究所	奈 良 市

3 国立文化財研究所には、支所を置くことができる。

4 国立文化財研究所及びその支所の内部組織は文部省令で定める。

文部省設置法施行規則 抜萃

昭和28年1月13日文部省令第2号、追加昭和43年6月15日
文部省令第20号、
昭和45年4月17日文部省令第11号、昭和48年4月12日
文部省令第6号、
昭和49年4月11日文部省令第10号、

第5章 文化庁の附属機関

第4節 国立文化財研究所

第2款 奈良国立文化財研究所

（所長）

第123条 奈良国立文化財研究所に、所長を置く。

2 所長は所務を掌理する。

（内部組織）

第124条 奈良国立文化財研究所に、庶務部、美術工芸研究室、建造物研究室及び歴史研究室並びに平城宮跡発掘調査部及び飛鳥藤原宮跡発掘調査部を置く。

2 前項に定めるもののほか、奈良国立文化財研究所に、飛鳥資料館及び埋蔵文化財センターを置く。

（庶務部の分課及び事務）

第125条 庶務部に、次の二課を置く。

一 庶務課

二 会計課

- 2 庶務課においては、次の事務をつかさどる。
- 一 職員の人事に関する事務を処理すること。
 - 二 職員の福利厚生に関する事務を処理すること。
 - 三 公文書類の接受及び公印の管守その他庶務に関すること。
 - 四 この研究所の所掌事務に関し、連絡調整すること。
 - 五 この研究所の所掌に係る遺構及び遺物の保全のための警備に関すること。
 - 六 前各号に掲げるもののほか、他の所掌に属しない事務を処理すること。
- 3 会計課においては、次の事務をつかさどる。
- 一 予算に関する事務を処理すること。
 - 二 経費及び収入の決算その他会計に関する事務を処理すること。
 - 三 行政財産及び物品の管理に関する事務を処理すること。
 - 四 庁舎及び設備の維持、管理に関する事務を処理すること。
 - 五 庁舎の取締りに関すること。

第127条 美術工芸研究室においては、絵画、彫刻、工芸品、書跡その他建造物以外の有形文化財及び工芸技術に関する調査研究を行ない、並びにその結果の公表を行なう。

2 建造物研究室においては、建造物に関する調査研究を行ない、並びにその結果の公表を行なう。

3 歴史研究室においては、考古及び史跡に関する調査研究を行ない、並びにその結果の公表を行なう。

（平城宮跡発掘調査部の六室及び事務）

第128条 平城宮跡発掘調査部に、考古第一調査室、考古第二調査室、考古第三調査室、遺構調査室、計測修景調査室及び史料調査室を置く。

2 前項の各室においては、平城宮跡に関し、次項から第六項までに定める事務を処理するほかその発掘を行なう。

3 考古第一調査室、考古第二調査室及び考古第三調査室においては、別に定めるところにより分担して、遺物（木簡を除く）の保存整理及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行なう。

4 遺構調査室においては、遺構の保存整理及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行なう。

5 計測修景調査室においては、遺構の計測及び修景並びにこれらに関する調査研究並びにこれらの結果の公表を行なう。

6 史料調査室においては、木簡の保存整理及び調査研究、史料の収集及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行なう。

(飛鳥藤原宮跡発掘調査部の二室及び事務)

第129条 飛鳥藤原宮跡発掘調査部に、第一調査室及び第二調査室を置く。

2 第一調査室及び第二調査室においては、それぞれ藤原宮跡及び飛鳥地域における宮跡その他の遺跡(藤原宮跡を除く)に関し、次の各号に掲げる事務を処理するほか、その発掘調査を行なう。

一 遺構及び遺物の保存整理及び調査研究並びにこれらの結果の公表

二 遺構の計測及び修景並びにこれらに関する調査研究並びにこれらの結果の公表

三 史料の収集及び調査研究並びにこれらの結果の公表

(飛鳥資料館)

第130条 飛鳥資料館においては、飛鳥地域の歴史的意義及び文化財に関し、国民の理解を深めるため、この地域に関する考古資料、歴史資料その他の資料を収集し、保管して公衆の観覧に供し、あわせてこれらに関する調査研究及び事業を行なう。

(飛鳥資料館の館長)

第131条 飛鳥資料館に、館長を置く。

2 館長は、館務を掌理する。

(飛鳥資料館の二室及び事務)

第132条 飛鳥資料館に、庶務室及び学芸室を置く。

2 庶務室においては、飛鳥資料館の庶務、会計等に関する事務を処理する。

3 学芸室においては、次の事務をつかさどる。

一 飛鳥地域に関する考古資料、建造物、絵画、彫刻、典籍、古文書その他の資料の収集、保管、展示、模写、模造、写真の作成、調査研究及び解説を行なうこと。

二 飛鳥地域に関する図書、写真その他の資料の収集、整理、保管、展示、閲覧及び調査研究を行なうこと。

三 飛鳥資料館の事業に関する出版物の編集及び刊行並びに普及宣伝を行なうこと。

(埋蔵文化財センター)

第133条 埋蔵文化財センターにおいては、次の事務をつかさどる。

一 埋蔵文化財に関し調査研究及びその結果の公表を行なうこと。

二 埋蔵文化財の調査及び保存整理に関し、地方公共団体の埋蔵文化財調査関係職員その他の関係者に対して、専門的、技術的な研修を行なうこと。

三 埋蔵文化財の調査及び保存整理に関し、地方公共団体の機関その他関係の機関及び団体等の求めに応じ、専門的、技術的な指導及び助言を行なうこと。

(埋蔵文化財センターの長)

第134条 埋蔵文化財センターに長を置く。

2 前項の長は、埋蔵文化財センターの事務を掌理する。

(埋蔵文化財センターの三室及び事務)

第153条 埋蔵文化財センターに、教務室、考古計画研究室及び測量研究室を置く。

2 教務室においては、研修の実施に関する事務を処理するほか、埋蔵文化財センターの庶務に関する事務をつかさどる。

3 考古計画研究室においては、第133条各号に掲げる事務(測量研究室の所掌に属するものを除く)をつかさどる。

4 測量研究室においては、埋蔵文化財の測量に関し、第133条各号に掲げる事務をつかさどる。

ANNUAL BULLETIN

OF

NARA NATIONAL CULTURAL PROPERTIES RESEARCH INSTITUTE

1975
CONTENTS

TEXT	Page
Preface.....	1
1. Report on the General Investigation of the Kaijûsen-ji (1)	2
2. Publication of the report on the Conservation of Sculptures and etc. at Nihon Bijutsu-in Work-shop.....	7
3. A Survey of Townscape in Narai-shuku, Kiso	8
4. Surveys of the Nara Palace Site and Ancient Metropolis of Nara	10
5. Wooden Tablets Excavated from the Nara Palace Site in 1973 and 1974	34
6. Arrangement of the Nara Palace Site (5)	36
7. Scientific Method for Conservation of the Sites and Retics (5)	39
8. Surveys of the Asuka and Fujiwara Palace Sites	44
9. Opening of the Asuka Historical Museum and Its New Exhibition	54
10. Applications of Photogrammetry to Small Artifacts and A Study of Lithic Technology	56
11. Surveys at the Sites of Kokubuniji and Provincial Government Office in Hôki (2)	59
12. Other Specific Researches and Surveys	60
13. Summaries of the Open Lectures	65
14. Organization and Activities of the Institute	66
PLATES	
1. Eleven-headed Kannon, Welcoming Souls to Paradise, Wall Painting, Main Hall, Kaijûsen-ji	
2. Townscape in Narai-shuku and It's Interior View	
3. Wooden Tablets Discovered during the 91st Survey of the Nara Palace Site	
4. Curved Roof Tiles Excavated from Western Priests' Quarters, Yakushi-ji	
5. Coins Found from the Third Ward of Eighth Avenue, Eastern Sector, Ancient Nara	
6. Site of Western Priests' Quarters, Yakushi-ji	
7. Sites in the Third Ward of Eighth Avenue, Eastern Sector, Ancient Nara	
8. Foundation Platform of Lecture Hall, Taikan-taiji	
9. General View of the Sites, 16th Survey, Fujiwara Palace Site	
10. South-eastern Corner of the Platform, Lecture Hall, Taikan-taiji	

Published by
Nara National Cultural Properties Research Institute
Nara, 1975